

令和元年度 総社小学校 学校評価書資料

学校経営目標	具体的計画	元年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、だれもが行きたくなくなる学校づくりの取組を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。 ②「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶、きちんと整頓、だまって掃除を推進する。(総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①進んであいさつができていくという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【人間関係・特別支援教育】	教職員: 97.9% 保護者: 78.3% 児童: 91.8%	B	・各学年で行っているあいさつ運動の取組をあいさつ運動強化週間に合わせて紹介する。 ・児童会中心のあいさつ運動と地域・ボランティアの方を巻き込んだあいさつ運動に取り組む。				
		②思いやりの心をもって生活しているという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【人間関係・特別支援教育】	教職員: 97.9% 保護者: 92.4% 児童: 89.5%	A	・相手を尊重する気持ちを育てるために、「さん」を付けて呼べるように、引き続き指導を続けていく。 ・各学年でピア・サポートについて振り返る時間を取る。また、ピア・サポートができている場をとらえて、価値づけるようにする。				
		③誰もが活躍できる機会を作ったり児童同士のつながりを強める活動を設けたりしているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【人間関係・特別支援教育】	教職員: 93.3% 保護者: 90.7%	A	・各学年で、協同学習や仲間づくりの活動に積極的に取り組み、学級の支持的風土をつくる。 ・縦割り活動(縦割り掃除やなかよし活動等)やピア・サポート活動を引き続き推進し、同学年でのピア・サポート活動も随時取り入れる。				
		④毎月のいじめ実態把握アンケートにより得た情報が全職員で共有され、いじめの早期対応に役立っているという回答が80%以上である。 (教職員) 【人間関係・特別支援教育】	教職員: 100.0%	A	・毎月のいじめ実態把握アンケートは前からの取組だが、アンケートにより発見し早期対応できたことが1学期に何件もあり、効果を実感できている。 ・成功事例を初任者や若手教員の研修にいかす。 ・いじめの実態把握アンケートにより得た情報を全教職員で共有し、いじめの早期発見・早期対応に引き続き取り組む。				
2 健康・体力作りの推進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ④目標を持って主体的に体力づくりに取り組み、最後まで粘り強く頑張る心を育てる。	⑦睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【保健安全】	教職員: 93.3% 保護者: 80.4% 児童: 75.2%	B	・メディアコントロール週間を中学校のテスト週間と重ねて実施したり、幼稚園のがんばりカードの内容を幼稚園を参考に保護者の取り組み項目を加えたりして、保幼小中の連携を図り、引き続き家庭を巻き込んだ取組を続ける。 ・本年度は「睡眠」を取りあげた講演会を3～6年生と保護者を対象に行い、児童と保護者の意識を高めて行動につなげる。				
		⑧自分のめあてを持って運動しているという回答が80%以上である。 (児童、教職員) 【保健安全】	教職員: 69.2%	A	・体育の授業では、児童が自分のめあてを持つような手立てや毎時間30分程度の運動時間の確保に引き続き取り組む。 ・岡山県が進めている「チャレンジング」を学年や学級で挑戦できるように、取り組みやすいような項目を委員会活動等で紹介する。				
3 確かな学力の育成	【すすんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践し、確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行うとともに、朝学習や総小チャレンジの時間を有効に活用し、学力補充に取り組む。 ⑥学習規律の徹底や教室内外の整頓に心掛け、落ち着いた学習環境をつくる。 ⑦総社東中ブロックの学校園と連携し、ノーメディアの取組を推進するとともに、家庭学習の充実を図る。	⑨授業が分かりやすいという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【学力向上】	教職員: 97.3% 保護者: 87.6% 児童: 90.5%	A	・校内研究では、教員が一人一回の研究授業を行い、相互に参観・協議を行うことで、授業力の向上に継続して努める。 ・特別支援教育の視点を取り入れながら、デジタル教材や視覚教材を積極的に活用することで、分かりやすい授業づくりに継続して努める。 ・児童が主体的に学習に取り組めるようにするために、協同学習での役割を与えたり、良質なコミュニケーションを促したりすることを継続して行う。				
		⑩国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が、80%以上である。 (教職員) 【学力向上】	教職員: 69.2%	C	・全教科、全領域で岡山型授業のスタンダードを取り入れ、児童が見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。 ・単元テスト後に、正答率が低い問題は、プリント学習や宿題等で復習することで、確実な習得を目指すようにする。 ・学年会などで学年主任の豊富な実践経験をもとに、若手教員に指導助言を行うことで、指導技術の向上を図ることを継続して行う。				
		⑫家庭で学年×10分+10分勉強しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【学力向上】	教職員: 85.7% 保護者: 77.7% 児童: 86.3%	B	・授業と家庭学習の課題を関連付けることで、学習内容の定着を図る。 ・ナイスノート週間後、各クラス代表のナイスノートを校内に掲示することで、児童、保護者が見学する姿が数多く見られた。家庭での自主学習の進め方を児童や保護者に啓発することができた。 ・がんばりカード(家庭での記録)に日々の家庭学習時間の欄を設けることで児童や保護者への意識付けをし、極端に数値が低い児童には個別に指導する。				
4 開かれた学校づくり	⑧各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑨きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑬学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85%以上である。 (保護者、教職員)	教職員: 74.4% 保護者: 90.5%	B	・引き続き各種の便りやホームページの更新により、学校の取組を知らせる。 ・学級懇談やPTA支部会等において出た保護者からの声を校内で共有して取組にいかす。				
		⑭校舎改築に伴う安全策を工夫し、校内外の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員)	教職員: 93.3% 保護者: 94.5%	A	・保護者や学校支援ボランティアと協力しながら、大勢の目で児童を見守る体制を作る。 ・PTA地区役員や学校支援ボランティアと積極的に情報交換を行い、危険箇所や登下校の様子を把握して指導にいかす。 ・新校舎での安全な過ごし方について、ルールに従って生活できるように繰り返し指導する。				